

第16回 日本緩和医療薬学会年会 シンポジウム

「2022年度緩和薬物療法認定薬剤師審査における優秀症例から学ぶ薬学的介入の実際」

開催日：2023年 5月27日 9:30～11:00

会場：第3会場

シンポジスト

発表タイトル：在宅緩和医療における保険薬局薬剤師による薬学的介入の実際



氏名：上遠野 剛司 (かどの たけし)

施設：株式会社 サノ・ファーマシー 山王薬局

職歴：

平成22年4月 株式会社 サノ・ファーマシー 入社

平成28年4月 東北医科薬科大学 非常勤講師兼任 (コミュニケーション実践論)

平成30年7月 山王薬局 配属 現在に至る (訪問薬剤師歴 10年)

主な学会発表：

無菌調剤室の共同利用を通し在宅緩和ケアに関わった1症例の報告

(第54回日本薬剤師会学術大会)

薬局薬剤師が在宅でのオピオイドローテーションに介入することで苦痛緩和を行った症例の報告

(第15回日本緩和医療薬学会年会)

認定に向けて力をいれたこと (200文字くらい)：

患者さんの処方と病態に基づいて現在の状態を評価するとともに、今後の状態変化を予測し訪問看護師を中心とした他職種の動き方を念頭におきながら、適したタイミングでガイドラインに基づいた処方提案の介入を進めていくこととその後のモニターを意識して進めるようにしました。緩和薬物療法認定薬剤師は臨床での実践能力を重視している認定資格です。日々の症例への関わり方がそのまま認定への基礎となっていくことを強く認識していました。

今後の抱負 (200文字くらい)：

緩和薬物療法認定薬剤師の認定を利用することで、育成に関わる機会を今まで以上に増やしていきたい。薬剤師の緩和ケアへの意識・価値観の水準を高めていくことで地域医療の質が上がっていくのと思っています。それが、地域包括ケアシステム実現の一助になるものと思っています。